

# えきまえじょうかく ソウル市地下鉄5号線・千戸駅



アパート群の中に現れた東壁（東から見る）



前頁の城壁を北に辿っていくと、城壁が無くなる場所がある。城壁があったであろう場所は写真のように高まりとなり、道が坂になっている。道の向こうは住宅地で、撮影ポイントより高く、もともとの集落と思われる。自然堤防であろうか。それに比べ前頁の巨大アパートは、あまり人が家を建てなかった低い場所に建設されているように見えた。閉まっている店舗の前はどこも駐車場と化していた。大阪みたい。



残存する北東部の城壁上から南を臨む。一応人が入れないようになっているが、城壁上は散歩コースになっているようだ。ちょうどこの時は雪が降っており、風の当たりが強い城壁上を歩く人はいなかった。それでも、写真の左（写っていない）には現代百貨店があり、多くの人出だった。この城壁の南端には市場があって、相当な賑わい。冷凍食品や乳製品は寒いから路上にそのまま積んで売ってました。

## 風納土城 (プンナントソン)

夢村土城の高い城壁から北東方向に見えるアパート群内に、帯状に城壁が残っています。これが風納土城の城壁です。夢村土城からは歩いて15分ほどの距離にありますから、2つをいっしょに見学することが十分可能です。

この城も百済のもので、3～5世紀のものようですが、研究者によって意見がわかれます。写真には「現代リバービル」と書かれたアパートが写っていますが、その名の示すように城跡は河畔に位置します。そのため解放前に起きた大洪水で西壁は流失したとのことで、残っているのは東壁と南壁の一部です。

現在、保存されている城壁には芝が張られて綺麗になっていますが、周囲は雑然とし、ゴミが目立ちます。史跡地周囲には金網が張られています。金網に張り付いたたい焼きの屋台があったのを見ると、不法占拠とゴミ投棄を防ぐために設置されたようです。現代では、城壁が人を守るのではなく、人が人から城壁を守らなくてはなりません。

この日は日曜でかつ旧正月の休暇に突入した直後でもあり、史跡内には一部を除いて立ち入ることはできず、歩いて確かめてみることはできませんでした。



韓国・ソウルマップ（韓国観光公社）より



千戸駅の出口付近から見る。整備のために城壁際にあった建物が撤去されて反対側の歩道からも城壁がよく見える。それでも廃棄物置場だけが残り、風でゴミが舞っていた。城壁は、2段築成となっており、前頁の城壁とは異なる。北東部の城壁では、ところどころで土嚢が盛土から顔をのぞかせていたので、整備に伴って嵩上げされているとみられる。

千戸（チョンホ）駅は5号線と8号線の乗り換え駅です。ホームの駅名表示には「千戸（風納土城）」となっていたので、城壁の整備はこの駅周辺の箇所が重点的に行われるのでしょうか。夢村土城とかけもちで見学できますが、食事はこの市場でとることをお勧めします。